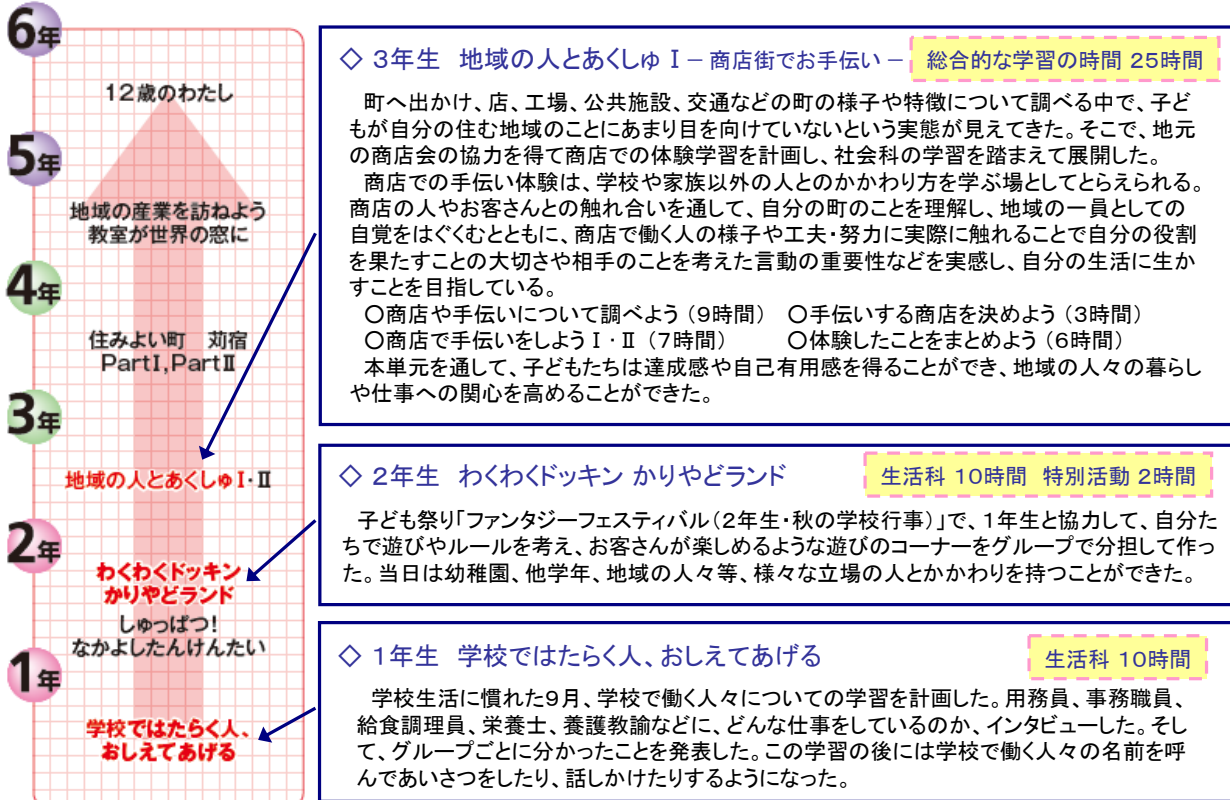


## 学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ① ～ 神奈川県川崎市立苅宿小学校 ～

- キャリア教育の視点からの様々な教育活動の見直しと、地元商店街との連携による体系的な実践



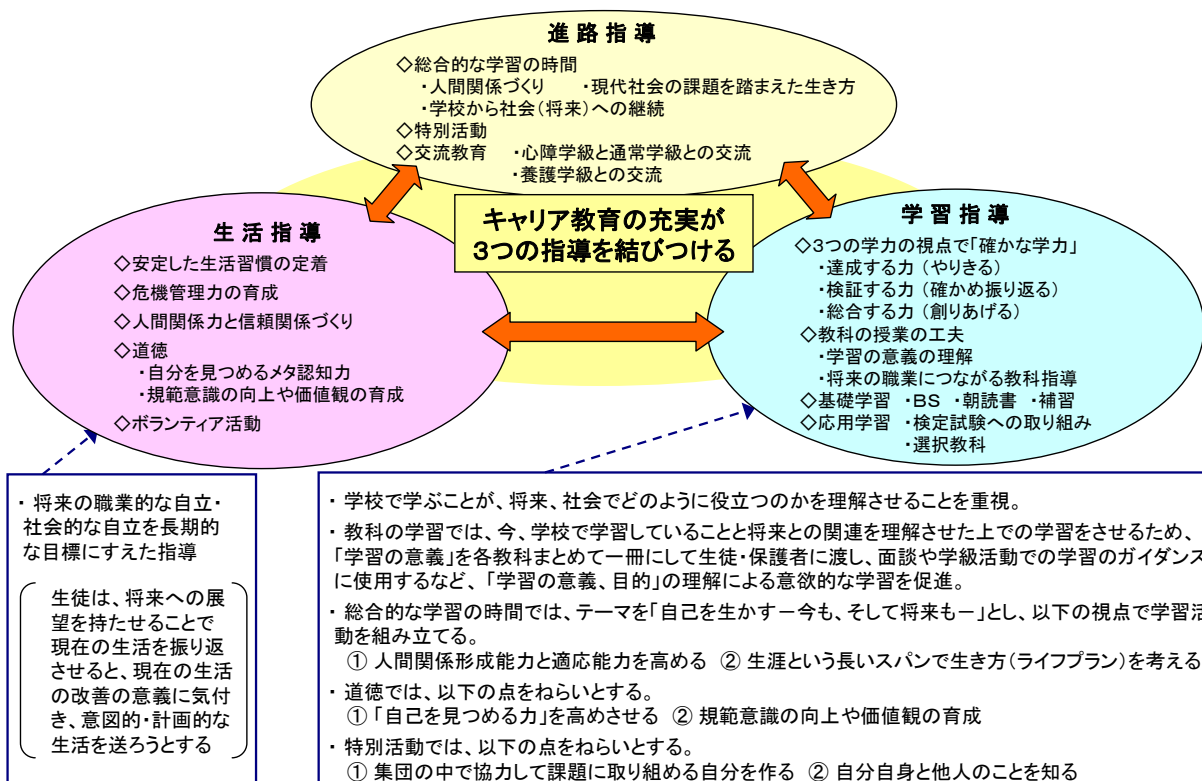
(出典) 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター

「自分に気づき、未来を築くキャリア教育」(小学校向けキャリア教育推進パンフレット)(平成21年3月)より作成

資料3(事例編)

## 学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ② ～ 東京都墨田区立寺島中学校 ～

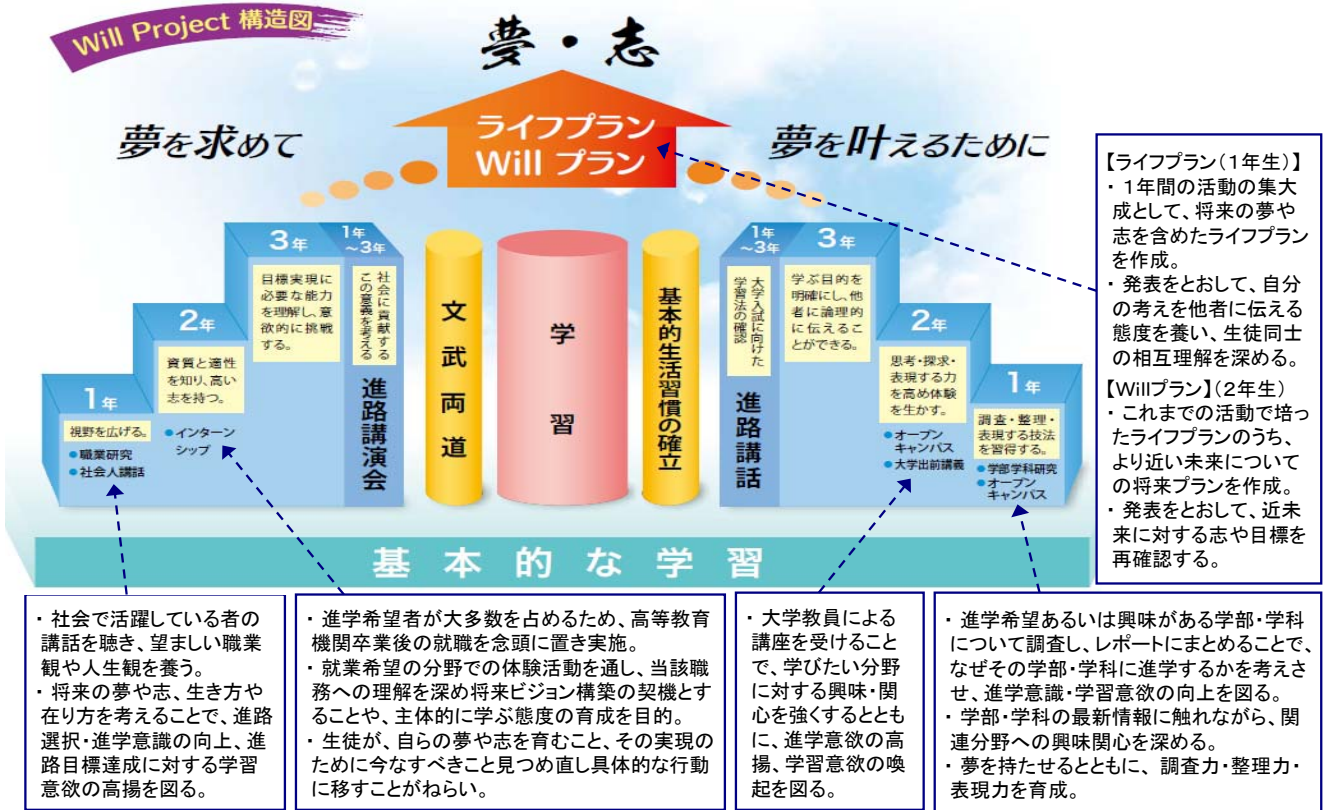
- 「現代から将来にかけて、自己の取り巻く社会の中で、自分を生かしていける生徒」「自分のよさを知り、目標を掲げて、自分を高めていける生徒」の育成を目指している。
- キャリア教育の充実により、進路指導・生徒指導(生活指導)・学習指導の3つの指導を結びつけている。



(出典) 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター「キャリア教育 体験活動事例集(第1分冊)」(平成20年3月)より作成

## 学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ③ ～ 秋田県立能代高等学校（普通科・理数科）～

- 生徒に「大きな夢と高い志」を持たせ、自己の可能性に挑戦する気概を育てることを目的とした取組である「Will Project」において、キャリア教育を実践。



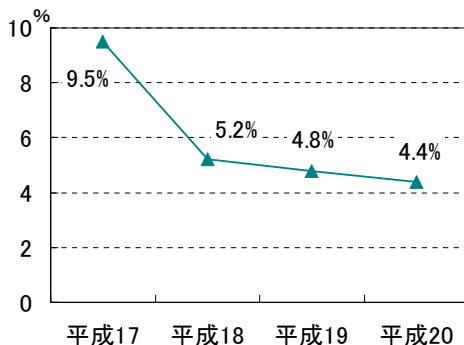
(出典) 秋田県立能代高等学校

「文部科学省指定『高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究』平成20年度 実施報告書(2年次)」より作成

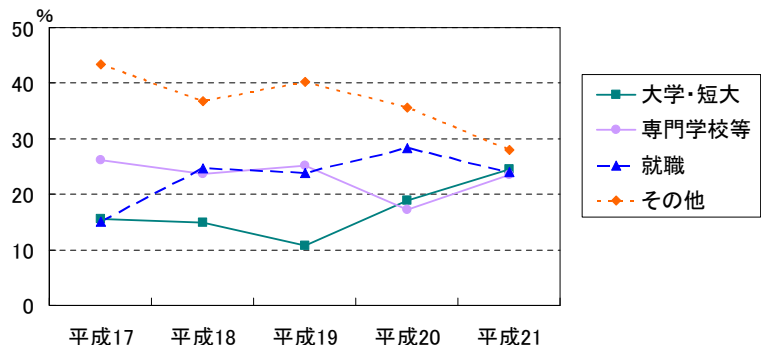
## 学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ④ ～ 神奈川県立田奈高等学校（普通科）～

- 「キャリア教育の充実」「授業改善の研究」「学習を支える条件の整備」の3つを通じ、生徒の学習への意欲を引き出し、学力の向上へつなげる取組を実施。
- 1学年の「総合A」(2単位)、2学年の「総合B」(1単位)を柱に、学校教育活動全体でキャリア教育を展開。教員と生徒が対話できる環境づくり(例:1学年教室の近くに「学年室」を置く)など一人一人の生徒に合わせたきめ細やかな指導を通し、生徒が自らの将来に希望を持てるように支援。
  - ※ 総合A … 「環境と自分」をテーマ。総合学科の「産業社会と人間」を参考に、学校独自のテキストを作成。職場見学体験や職業ガイダンス等を通じ、仕事の世界を知り自分自身の将来について考える「進路研究編」、日常生活に潜む様々な課題やリスクについて考える「生活研究編」で構成。(平成21・22年度については、「生活・進路研究活動」として実施)
  - 総合B … 「インターンシップ」「専門学校実習」「アルバイトから考える(卒業生の職場を訪問)」などキャリア教育に関する講座を含めた12の講座を実施。生徒はその中から講座を選択。
- 平成21年度より、生徒も教員も学んでいることを振り返ることができる仕組みとして「ポートフォリオ」を導入。
- 平成21年度より、神奈川県教育委員会は、「クリエイティブスクール」(学習意欲を高める全日制課程の新たな学校のしくみづくり)として指定。
- これらの取組の実践を通じ、中途退学率や進路未決定率の低下、キャリア教育プログラムへの生徒の高い評価、生徒の学習意欲の向上などの成果が現れている。

【中途退学率の推移】



【進路状況の推移】



(出典) 神奈川県立田奈高等学校

「文部科学省指定『学力向上拠点形成事業～確かな学力育成のための実践研究事業～』平成20年度 実践研究報告(第3年次)」等より作成





	小学校			中学校			高等学校				
	学習指導要領の記述例			学習指導要領の記述例			学習指導要領の記述例				
	目標	内容、配慮事項等	教育活動の例	目標	内容、配慮事項等	教育活動の例	目標	内容、配慮事項等	教育活動の例		
特別活動	<p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。</p>			<p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。</p>			<p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。</p>				
	<p><b>【学級活動】</b> 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参加し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p>	<p>(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 希望や目標をもって生きる態度の形成 望ましい人間関係の形成 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解</p>	<p>学校生活・学級生活についての話し合い・集会活動 清掃、給食、日直、飼育、栽培などの当番活動</p>	<p><b>【学級活動】</b> 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参加し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p>	<p>(2) 適応と成長及び健康安全 自己及び他者の個性の理解と尊重 社会の一員としての自覚と責任 望ましい人間関係の確立 (3) 学業と進路 学ぶことと働くことの意味の理解 学ぶことと働くことについて発表・ディベート 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 進路適性の興味と進路情報の活用 望ましい勤労観・職業観の形成 主体的な進路の選択と将来設計</p>	<p>卒業生や社会人・職業人による講話 地域の身近な出来事についての話し合い 望ましい人間関係の在り方についての話し合い 学ぶことと働くことについて発表・ディベート 上級学校調べ 職場体験活動 ライフプラン・進路計画の作成・発表 身近な職業と職業選択についての話し合い</p>	<p><b>【ホームルーム活動】</b> ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参加し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p>	<p>(2) 適応と成長及び健康安全 自己及び他者の個性の理解と尊重 社会生活における役割の自覚と自己責任 コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立 (3) 学業と進路 学ぶことと働くことの意味の理解 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用 教科・科目の適切な選択 進路適性の理解と進路情報の活用 望ましい勤労観・職業観の確立 主体的な進路の選択決定と将来設計書の作成・発表</p>	<p>卒業生や社会人・職業人による講話 社会の出来事についての話し合い 望ましい人間関係の在り方についての話し合い 学ぶことと働くことについて発表・ディベート 学習過程の振り返り オリエンテーション 進路学習機会や上級学校調べ 就業体験活動 ライフプラン・進路計画の作成・発表 職業生活、働くことと生きがいについての話し合い 進路選択の結果とその受け止め方についての学習</p>		
	<p><b>【児童会活動】</b> 児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参加し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>学校の全児童をもって組織する児童会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。</p>	<p>児童会の計画・運営 異年齢集団による交流 学校行事へ協力</p>	<p><b>【生徒会活動】</b> 生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参加し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。</p>	<p>生徒会の計画・運営 異年齢集団による交流 学校行事へ協力</p>	<p><b>【生徒会活動】</b> 生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参加し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。</p>	<p>生徒会の計画・運営 異年齢集団による交流 学校行事へ協力</p>		
	<p><b>【学校行事】</b> 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。</p>	<p>ボランティア活動 勤労体験活動 地域や公共施設での清掃活動 福祉施設との交流</p>	<p><b>【学校行事】</b> 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。</p>	<p>勤労生産・専任の仕事 勤労の尊さや生産の喜びを体得し、職業体験などの職業や進路にかかわる感情的な体験が得られるようにするとともに、共に助け合っで生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。</p>	<p>職場体験活動 ボランティア活動 地域社会への協力 上級学校・企業訪問</p>	<p><b>【学校行事】</b> 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。</p>	<p>勤労生産・専任の仕事 勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業体験などの職業の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、共に助け合っで生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。</p>	<p>就業体験活動 ボランティア活動 地域社会への協力 上級学校・企業訪問</p>
	<p><b>【クラブ活動】</b> クラブ活動を通して、望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してよりよい生活づくりに参加しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>学年や学級の所属を離れ、主として興味のあるクラブにおいて、異年齢集団の交流を深め、共通の興味・関心を追求する活動を行うこと。</p>	<p>クラブの計画・運営 異年齢集団による交流</p>								

※ 中学校・高等学校において、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものである。

## 科目「産業社会と人間」の取組例①

東京都立晴海総合高等学校	愛知県立岩倉総合高等学校
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の進路や生き方について考える</li> <li>2年生からの「系列」及び「科目」を選択する考え方や態度を養う</li> <li>学ぶことの意味について理解を深める</li> <li>学び方(Learning Skill)を学ぶ</li> <li>社会の変化を踏まえ、未来社会でも個性を発揮することを考える</li> </ul> <p><b>【主な内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班別調査学習(発表内容の検討→レジュメ等の資料作成→発表会) <ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会の課題について考える</li> <li>社会における自己の活かし方を考える</li> <li>ブレ課題研究(2年次)課題研究(3年次)につながる調査方法・発表表現の習得する</li> </ul> </li> <li>職場訪問(事前説明・職業に関する講演会→職場訪問→報告会) <ul style="list-style-type: none"> <li>職業の世界(事業・組織・社会)を知る</li> <li>勤労観・職業観を育成する</li> <li>社会規範を知る</li> <li>コミュニケーション能力を高める</li> <li>まとめ、発表する力を高める</li> </ul> </li> <li>ライフプラン作り(自分史の作成→発表原稿の作成→発表会) <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の将来像を具体的にイメージさせ、暫定的な目標の設定をし、夢の実現に向かう行動</li> <li>現在の自分の生活を省みる</li> <li>友人のライフプランから学ぶ</li> <li>お互いの個性を活かす態度を身につける</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な活動(講演・調査研究・見学・体験など)を通して、自らの進路や将来のあり方について、考えを深め、より望ましい生き方を探求する</li> </ul> <p><b>【主な内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習(企業・大学の見学→発表会準備→発表会) <ul style="list-style-type: none"> <li>「調べる力」「聞く力」「まとめる力」「発表する力」の土台作り</li> </ul> </li> <li>地域の産業見学(企業見学→発表会準備→発表会) <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の産業理解、職業と地域の関連、身だしなみやマナーの大切さなどを学び、勤労観・職業観を育成</li> </ul> </li> <li>「社会人講師の先生を困んで」講演会(地域の経営者との座談会・体験学習→発表会準備→発表会) <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の人生や職業を体感するとともに、様々な職業の人が社会を支えていることを理解</li> </ul> </li> <li>研究報告書の作成・発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の自分の取組や成長を客観的に振り返り、それを発表することにより、キャリア力(人生づくりの力)の育成を図る</li> </ul> </li> </ul>

# 科目「産業社会と人間」の取組例②

## 筑波大学附属坂戸高等学校

### 【目標】

- ・ 様々な体験的学習を通して自己を見つめ、将来について考え、2、3年次の履修計画を作成する
- ・ 産業や社会について学び、産業の意義や使命を理解し、どうしたら社会をもっとよくなるかを考える

### 【主な内容】

- ・ 社会人講師の講演会、菜園づくり  
→ 色々な体験を通して、自分の適性を把握する。菜園づくりを通して食の生産を含む社会の在り方を考える
- ・ 社会人講話と職場実習、上級学校見学会  
→ 職業や上級学校を知り、進路を考える
- ・ 特別支援学校との交流会、福祉体験  
→ 自分の立場と違う人を知り、自分を見つめ直すとともに、社会の在り方を考える
- ・ ライフプランの作成（発表準備 → 発表会）  
→ 履修計画を作成する過程における考えを整理し、決意を固めるとともに級友たちの考えを知る

## 大分県立日田三隈高等学校

### 【目標】

- ・ 自分を知る、社会を知る、自分と社会の接点を知る
- ・ 「調べる力」「まとめる力」「発表する力」「聞く力」の4つの力を身につけ、これを「生きる力」に結びつける
- ・ 自ら進んで進路を選択していく能力を身につける

### 【主な内容】

- ・ 進路学習（職業調査：調査 → 発表準備 → 発表会）  
→ 活動を通じて4つの力を養い、これまで興味・関心の無かった職業を理解するとともに、発表会等で進路情報を共有することで、社会を知る。
- ・ 職場見学・上級学校見学  
（事前調査 → 報告書作成・共有 → 見学 → 発表準備 → 発表会）  
→ 職場や上級学校の実際を知ること、進路に対する視野を広げるとともに、自らすすんで進路を選択する能力を養う。
- ・ 「この人に学ぶ」  
（職業人調査：“この人”の選定 → 面接調査 → 発表準備 → 発表会）  
→ 個人での活動を通じて4つの力を高めるとともに、得られた進路情報を共有し、職業を通じた在り方生き方について考える。4つの力を総動員する。
- ・ 「キャリアプラン・ライフプラン」の作成（発表準備 → 発表会）  
→ 1年間の学習をもとに、今後の2年間及び生涯を見据えた自己の在り方生き方をシミュレーションする。4つの力の集大成を図る。
- ・ 「3年生に学ぶ」「卒業生に学ぶ」  
→ 身近な先輩に学ぶことで、自分の近未来像を描く。これからの高校生活への意欲を喚起するとともに、様々な職業についての理解を深める。

※ すべての活動において、「調べる・まとめる・発表する・聞く」ことを繰り返し、全員がホームルームで発表し、ホームルーム代表が学年発表会に臨む。（全員が主役となる）

## 高等学校普通科における職業教育の実践例 ～ 大阪府立布施北高等学校 ～

- 就職希望者が多いことなどを背景として、平成16年度より、地元東大阪市の企業・施設の協力を得て「デュアルシステム」に取り組むことにより、「良き社会人、職業人」となるための訓練を、学校と地域の企業・施設と協働で実施。
- 平成16年度、文部科学省「専門高校等における『日本版デュアルシステム』推進事業」において研究指定（3年間）平成18年度より、「デュアルシステム専門コース」を設置。平成21年度は、2・3年次でデュアルクラスを編成。
- 学校設定教科「デュアル」の科目として、2年次に「デュアル実習Ⅰ」（6単位）、「デュアル基礎」（2単位）、3年次に「デュアル実習Ⅱ」（6単位）、「デュアル演習」（2単位）を開設。希望者は2年次より選択。

※ デュアル実習Ⅰ … 年間を通じて、週1日、企業・施設での実習を行う。実習を通じて、自らのキャリアへの意識を高め、「在学中に何を学ぶか、何をすべきか」を考える。また、多様な価値観の中で物事を判断し、社会で生きる力をつける。

デュアル基礎 … 実習を振り返り、自分にとっての学びを確認する。また、レポート作成やプレゼンテーションを通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力（聞く力、話す力、まとめる力、書く力）を養う。

デュアル実習Ⅱ … 年間を通じて、週1日、企業・施設での実習を行う。実習を通じて、自らのキャリアへの意識を高め、自らの進路実現に向けた自己開発を積極的に行う。また、多様な価値観の中で物事を判断し、人間力を育てる。

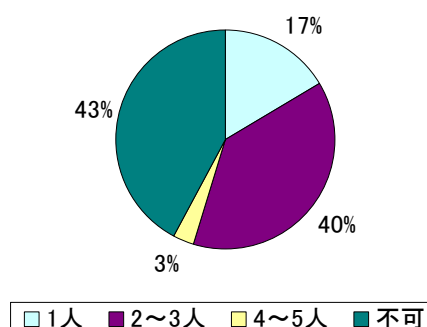
デュアル演習 … 実習を通じて学び得たことを、発展・発信する。また、模擬的に企業の活動に参加し、経営者の視点を学ぶ。

- その他、「マナー講習会」「講演会」「プレゼンテーション講習会」などの講習・講演の開催や、「企業・施設見学」「地域のイベントへの参加」「デュアル実習発表会」などの行事を実施。

※ 実習分野別デュアル実習生徒数

	合計	保育 幼児教育	介護 福祉看護	営業 販売	製造 現業	
H17	17	3	5	4	5	
H18	27	10	5	4	8	
H19	前期	57	35	7	6	9
	後期	55	25	7	11	12
H20	前期	52	22	8	11	11
	後期	51	20	6	12	13

【参考】企業の受入れ人数（平成18年3月）



（出典）大阪府立布施北高等学校「平成20年度 デュアルシステム専門コース 報告集」等より作成

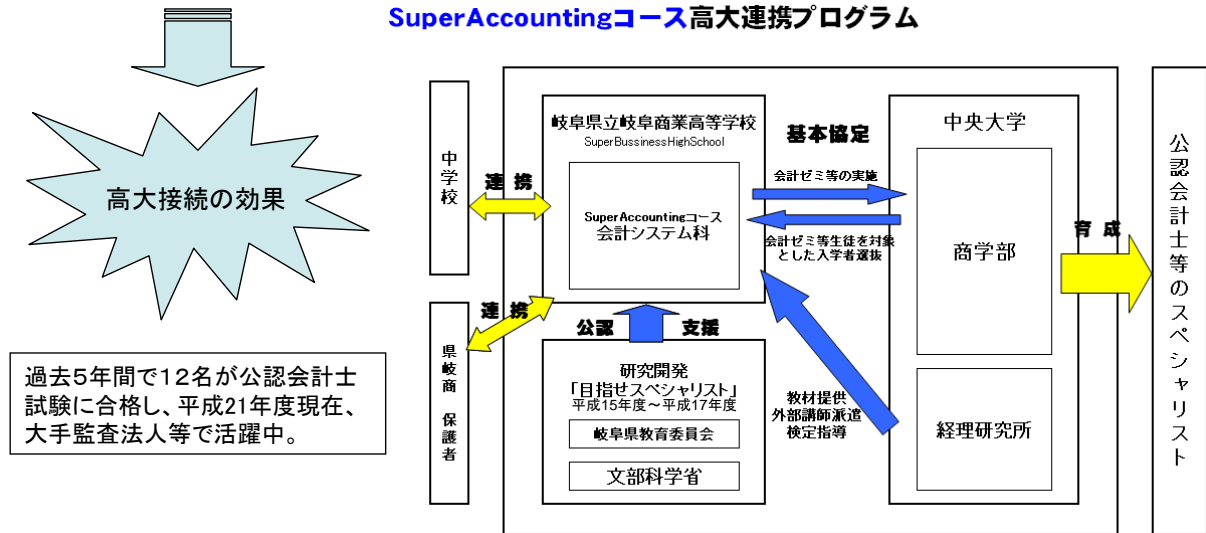


# 専門高校における職業教育の実践例① ～ 岐阜県立岐阜商業高等学校 ～ (卒業後更に高度な知識・技能を身に付け、将来の専門的職業人として活躍できる人材の育成)

## 中央大学商学部との高大接続プログラム(岐阜アカウティングプログラム)の概要

- 日商簿記検定1級又は全経簿記検定上級合格者で、一定の評定以上の成績と学校長の推薦があり、将来公認会計士を志望する者で中央大学への進学を希望する者が中央大学が実施する「会計ゼミ」を受講。会計ゼミの成績と面接で大学への合否が判定される。これら「会計ゼミ」は大学入学後、「高等簿記論Ⅰ」2単位として認定。
- 「会計ゼミ」受講生は、商学部とは別に、公認会計士を養成する専門機関である中央大学経理研究所より出前授業や教材の提供を受けるとともに、大学進学後は、経理研究所に身を置き、公認会計士を目指し学習。
- 「会計ゼミ」の内容は、財務会計の基礎から応用、管理会計論、監査論、税務会計論、会計システム論と会計学全般の内容が実施され、すべてゼミ形式で実施。

### SuperAccountingコース高大連携プログラム



# 専門高校における職業教育の実践例② ～ 地域産業の担い手育成プロジェクト(熊本県) ～ (卒業後それぞれの職業に就き、地域の産業・社会を担う人材の育成)

熊本県立菊池農業高等学校、鹿本農業高等学校、阿蘇清峰高等学校の取組

### 事業内容

- 生徒の現場実習  
望ましい勤労観、職業観を醸成するために年間を通じた長期の実習を週1回、年間14回程度実施。
- 農業経営者の実践的指導  
第6次産業的な先進的な視点での知識・技術等の幅広い授業を展開する。
- 教員の農業経営者等での技術研修  
農業経営者等での技術研修を実施し、総合的・複合的な指導力や研究開発能力を高める。
- 地域資源を活用した商品開発等共同研究  
地域資源を活用した商品開発等共同研究を充実させる。

### 将来像

- 地域の農業に貢献する実践的農業技術者・地域リーダー
- 地域農業界と連携・協働した共同研究等による地域活性化
- 教員の総合的な指導力及び研究開発能力の向上

### 3年後の自立化

- 農業関係高校12校での熊本版農業経営者等人材育成デュアルシステムの導入
- 「農業経営者育成プログラム」の定着と継続した人材育成

### 平成20年度の達成目標

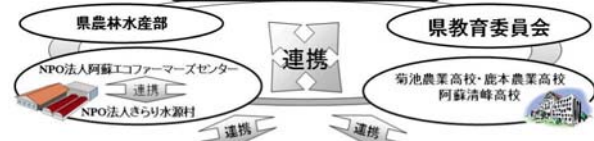
目標 実績

①生徒の現場実習の日数 :14日以上	①3~14日 ※学校によりバラツキが生じた。
②農業経営者等による特別授業の満足度:80%以上	②90.8%
③地域資源を活用した新商品等共同研究と地域課題解決への取組:1校1開発以上	③1校1開発 菊池農業高校(ヤーコンソーセージ) 鹿本農業高校(コメロンパン) 阿蘇清峰高校(湧水を活用したイチゴ栽培の基礎技術)

### 地域産業の担い手育成プロジェクト(熊本県農と食の人材育成プロジェクト)

- > 地域農業に貢献する実践的農業技術者・地域リーダーの育成
- > 地域農業界と連携・協働した共同研究による地域活性化
- > 教員の総合的な指導力及び研究開発能力の向上

### 人材育成連携推進委員会



### 農業経営者、農業法人等

各校共通の取組	特色ある取組
菊池農業高校 ● 生徒の現場実習	文部科学省指定農業経営者育成校として人材育成
鹿本農業高校 ● 農業経営者等による特別授業	農業経営者等と連携した新商品開発(米粉食品等)
阿蘇清峰高校 ● 教員の農業経営者での技術研修	湧水を活用したイチゴの周年栽培、「竹」の有効活用に関する研究
阿蘇清峰高校 ● 地域資源を活用した商品開発の共同研究 など	

(出典)「文部科学省、農林水産省連携事業『地域産業の担い手育成プロジェクト』平成20年度 実施報告書(1年次)」より作成

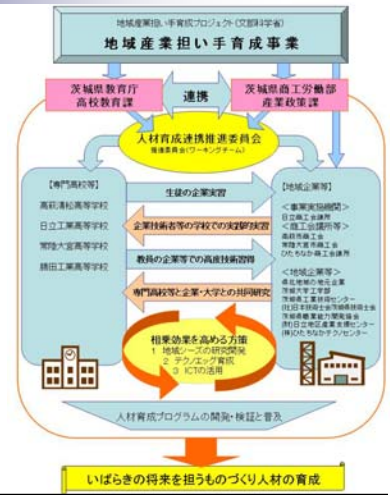
**専門高校における職業教育の実践例③** ～地域産業の担い手育成プロジェクト(茨城県教育委員会・日立商工会議所)～  
 (体験的な学習や地域企業と連携を図った現場での長期間の実習など、実践的な教育活動を積極的に実施している事例)

**取組校**

茨城県立日立工業高等学校、茨城県立高萩清松高等学校  
 茨城県立常陸大宮高等学校、茨城県立勝田工業高等学校

**事業の概要**

県内屈指の工業地帯である日立地域を核として、県北の4商工会議所等が、地元の工業高校等及び県教育委員会と連携し、地域のものづくりを担う人材育成を図るため、デュアルシステムを核とした生徒の企業実習、ICタグや省エネカーの研究など地元企業と一体となった事業を展開している。また、これまで繋がりの薄かった4校が、共同で小学生向けのイベントや、ワークショップを実施するなど、取組を地域全体に広げる試みを推進している。



**〈取組校の例〉 茨城県立日立工業高等学校**

- **内容**  
 日立工業高等学校の2年生の生徒17名が、地元企業で1年間にわたって技術実習を行った。生徒の希望に即した実習が積めるように配慮されるなど、将来の進路に役立つ技術の習得に努めた。変電器製造業の茨城電機工業(株)では、実際に製品を作る責任を伴う作業のほか、仕組みへの理解や達成感を味わうため、小型機器を独自で作る過程や社会としてのルール・職業観・勤労観についても熱心な指導がなされる。
- **成果**  
 実習は週1回継続的に実施していることから、生徒の技術・技能・職業観の向上や、成果発表会に見られるコミュニケーション能力の向上などがあつた。また、生徒及び高等学校との受け入れ企業に良好な関係が築かれつつあり、実習以外の学校の取り組みにも企業の協力が得られるなど高等学校と地元企業にとって、新たな協力関係が生まれはじめています。この取り組みは、事業全体の核となる取り組みで、茨城県の広報TV番組でも紹介された。



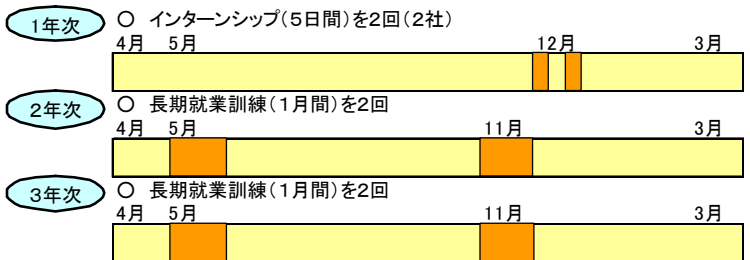
(出典)「平成20年度 中小企業ものづくり人材育成事業(工業高校等実践教育導入事業)に係る成果事例集」(経済産業省中小企業庁)より作成

**専門高校における職業教育の実践例④** ～東京都立六郷工科高等学校～  
 (体験的な学習や地域企業と連携を図った現場での長期間の実習など、実践的な教育活動を積極的に実施している事例)

**事業の概要**

- 産業界と高校とのパートナーシップを深め、協同して人材育成を行う職業教育。
- インターンシップよりも長い期間、ものづくり企業での就業訓練を行い、学校外における学修として単位認定される。
- 企業と生徒の双方が合意すれば、卒業後にその企業へ就職することも可能である。

**1年次前期に数多くの企業見学を導入し、働く事への「動機付けを十分に行った上で、就業訓練を段階的に行っている。**



(企業における学習風景の例)



**企業との連携のポイント**

- 高卒者の採用を見込んでいる地区内企業の中から本枠組の参加を募っている。
- 生徒は実習する企業での就職を視野に入れて、実習企業を選定する。
- 定期的に高校教員が企業を訪問し、企業実習について連絡調整を行っている。
- 実習に参加した全生徒による成果発表会に実習受入企業も参加している。
- 長期就業訓練実施に際して指導・助言を得るため、学校関係者、大田工業連合会代表、実習受入企業代表、学識経験者、都教育委員会、都産業労働局で構成するデュアルシステム推進委員会を設置し、実習内容の改善を図っている。

**導入の効果**

- 生徒**
  - 勤労観・職業観が身につく、進路決定も積極的になる。
  - 実践的な技能・技術が身につくとともに、学校での基礎的な学習の大切さに気づく。
  - 挨拶、コミュニケーション・プレゼンテーション能力が早い段階から身につく。
  - より自分の能力を生かせる企業に就職できる(ミスマッチの減少)。
- 企業**
  - 生徒受入れにより職場に活気が出るとともに、受入れのための研修により、社員の能力向上につながる。
  - 採用時におけるミスマッチが少なくなり、早期離職を回避できる。
  - 実践的な技能・技術を有するため、入社後の育成期間が短縮できるとともに、後継者が確保できる。
  - 受入れ生徒の安全確保のため、「災害ゼロ」が達成される。

(資料提供)東京都教育委員会

# 専門高校における施設・設備等を効率的・効果的に活用している例

## 専門高校の拠点校整備(広島県教育委員会)

### 県立高等学校再編整備基本計画(関連部分)

#### ●拠点校の整備

農業・工業及び商業の各学科については、地域的なバランスを考慮しながら拠点校化し、普通科や総合学科も含めた本県における職業教育のセンター的な機能を持たせるため、学科の改編を含めた教育内容の見直しを行うとともに、最新の施設・設備を重点的に整備

### 拠点校の目指す教育

#### ●生涯にわたり学び続ける意欲をもったスペシャリストの育成

- 産業の高度化に対応した、専門性の習得
- 高度な資格取得
- 上級学校への進学
- 県内企業への人材供給
- 県内の職業教育のセンター的役割

学校名	整備年度	整備内容	センター的役割例
広島工業	平成16	レーザー加工機整備 3次元測定器整備 等	・工業高校生を対象の技術講習会 等
西条農業	平成17	動物科学棟建築	・動物バイオに係る研修会 等
福山工業	平成18	レーザー加工機整備 NC旋盤教育システム 等	・地域の高校生等に拠点校設備公開 等
庄原実業	平成19	園芸用温室及び実習棟建築 太陽光発電パネル設置工事	・他校への先端技術等の提供
広島商業	平成19	販売実習室及び販売実習のための付属設備整備	・中学校出前授業 等
尾道商業	平成20	販売促進実習のための模擬オフィス等の整備	・中学生の販売実習 等

## 県を越えた同一学科の連携(栃木県と茨城県の水産高校)

### 連携校の現状

- 栃木県立馬頭高等学校
  - ・ 全国唯一の淡水魚を主とした栽培漁業を行う水産科を有する普通科との併設校
- 茨城県立海洋高等学校
  - ・ 本科4クラス(海洋技術科、海洋食品科、海洋情報科、海洋工学科)及び専攻科を有する水産科単独校
  - ・ 全国でも有数の水深10メートルの潜水プールを整備。

### 連携の内容等

#### 茨城県の施設・設備を活用した馬頭高等学校の実習内容

#### ●水産基礎の基礎実習(1年次)

- 1 目的  
船と海に対する理解を深めさせるとともに、河川では実施できないカッターを主とした実習を行うことにより集団の一員としての協調性を養う。
- 2 内容  
カッター、潜水、ロープワーク
- 3 使用施設・設備  
茨城県立海洋高等学校所有のカッター、潜水プール、潜水機材等

#### ●潜水実習(3年次)

- 1 目的  
ダイビング(潜水)に関する基礎的な知識と技術についての指導を行うことで、ダイビングの概要を理解させ、栽培漁業や海洋環境等に生かす術を身に付けさせる。
- 2 内容  
高等学校潜水検定3級(民間のBasic Diverクラス)の内容に沿って実施。
- 3 使用施設・設備  
茨城県立海洋高等学校所有の潜水プール、潜水機材等

## 不登校や中途退学を経験している生徒等の受入れに対応している専修学校高等課程の例

### 【生蘭学園生蘭高等専修学校】神奈川県綾瀬市

#### (取組内容)

- 「中学校時代欠席が多かった生徒や学習面でつまづきのある生徒を対象にした「適応コース」を設置。同コースにおいて、少人数制の個々の状況・特徴に応じた多様なクラスを開設。

- ・ 適応クラス・・・1クラス16名～20名の少人数で、対人関係が苦手であったり、中学校時代欠席が多かった生徒が、基礎学習から応用力まで力を伸ばすことを目標とする。
- ・ 学習開発クラス・・・1クラス16名～20名の少人数で、基礎学習の定着を目標に、一つ一つの学習を丁寧に実施する。
- ・ 基礎クラス・・・1クラス25名～30名の普通学級。学習の基礎的内容の復習から開始し、着実に基礎力を高める。

### 【岩谷学園高等専修学校】神奈川県横浜市

#### (取組内容)

- 「中学校で欠席が多かった」、「コミュニケーションが苦手」等の特徴をもつ生徒のために、生徒が学校の学習・生活の流れにスムーズに乗れるよう、放課後学習・個別指導の場(「アップルーム」)を設置・常時開放し、サポートを実施。
- 一人一人の進路・目標を見据え、生徒の基礎学力の定着や技能修得(各種検定・資格試験)に向けた特別授業(「ダブルアップ」)を実施(週1回)。
- スクールカウンセラーを配置し、生徒の学校生活における悩みや保護者からの相談に対応。

### 【武蔵野東技能高等専修学校】東京都武蔵野市

#### (取組内容)

- 編入学試験、編入学枠の設定など、高等学校等中退者向けの受入れ体制を構築。
- 1クラス35人前後、かつ、習熟度別の学級編制。1クラスに担任・副担任の2人の教員を配置し、生徒一人一人の個性・適正を踏まえつつ、きめ細やかな指導を実施。



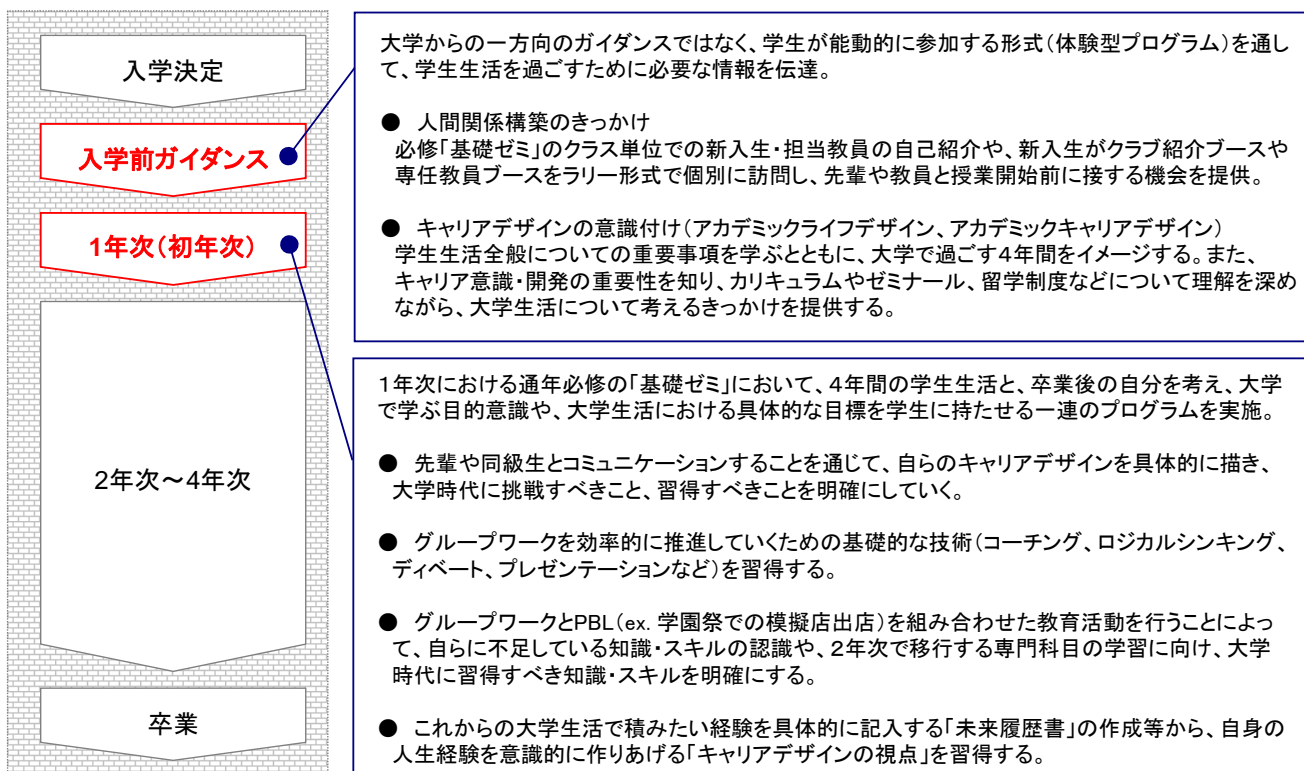
# 高等教育段階におけるキャリア教育の取組



## 【1】入学前段階や入学初年次における後期中等教育からの円滑な接続や学びへの意欲の向上のための教育上の配慮

入学初年次において学生自身に学生生活と卒業後の自分を考えさせ、高等教育機関で学ぶことの目的意識を持たせることなどにより、キャリア形成を行う基盤を培うための取組を実施。

(例) 嘉悦大学



## [1] 入学前段階や入学初年次における後期中等教育からの円滑な接続や学びへの意欲の向上のための教育上の配慮

入学者の学習意欲の醸成、学習習慣の確立のため、高大連携校の高校教員と組織した研究会を設置し、問題意識の共有と解決策の検討を行い、大学での学習にスムーズに移行できるよう入学前教育を実施。

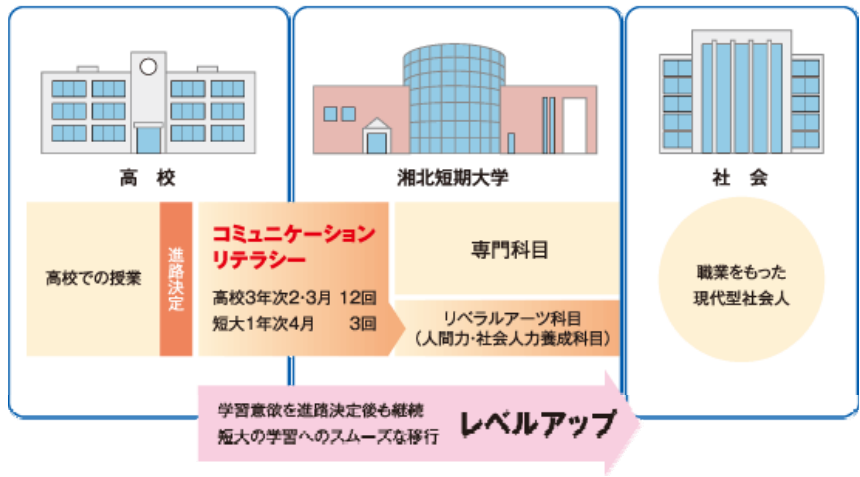
(例) 湘北短期大学

### ●コミュニケーションリテラシーの開講

企業・高校教員に対するアンケートの結果も踏まえ、将来社会人・職業人として必要な能力として、「コミュニケーション能力」が学生に特に求められていると認識。

また、入学者の学力低下の背景として、大学入学時の学ぶ意欲、学ぶ習慣が希薄であるという課題認識。また、早期に進学を決定した高校生の学習意欲維持について、高校教員との問題意識を共有。

そこで、平成19年度から、学生が高い目標意識の下に学ぶための「動機付け」を行うとともに、将来社会人として仕事をする上でコミュニケーション能力が重要であることを理解するため、連携高校の推薦入試合格者を対象として、高校在学中に「コミュニケーションリテラシー」を開講している。

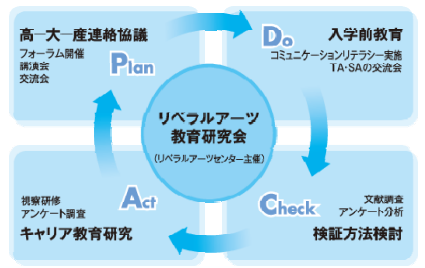


### ●リベラルアーツ教育研究会の設置

平成18年度より、連携高校の教員及び大学の全学科からの教職員が参加する連携協議会を設置しており、高校教育の実情を深く理解した上で、短期大学教育を最適化する取組を実施。



また、こうした取組も踏まえ、新たに企業人も含めたリベラルアーツ教育研究会活動を準備中。人材育成に対する要望や課題認識の共有等を行い、教育改善につなげていくための取組を行う。



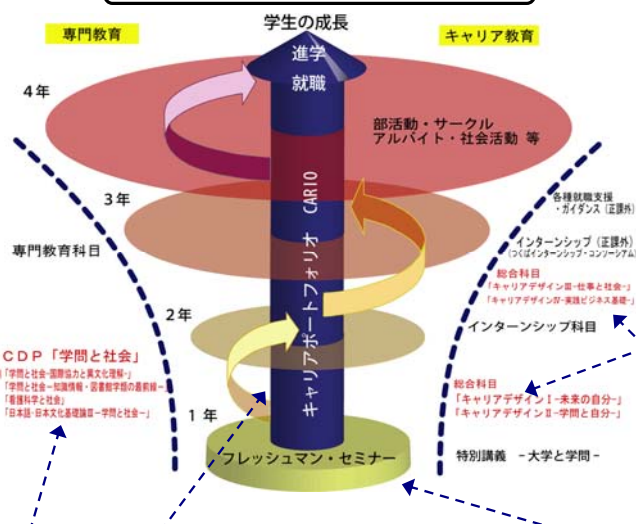
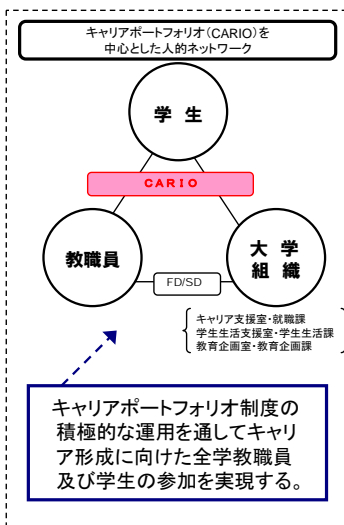
参考URL: [http://www.shohoku.ac.jp/introduction/program\\_04.html](http://www.shohoku.ac.jp/introduction/program_04.html)

## [2] 教育課程の中に位置付けられたキャリア教育

教育課程全体において、専門教育とキャリア教育の融合を目指して、社会人・職業人への移行期としての、大学生活を有意義に過ごすための各種プログラムを展開することを通じて、教職員・学生の人的ネットワークの拡充・活用を推進。

(例) 筑波大学

### 専門教育とキャリア教育の融合プログラム



●キャリアデザイン(CD) I～IV  
キャリア形成のための力を身に付ける全学対象科目。キャリアポートフォリオを使用し、グループワークを導入している。就職活動の準備ではなく、大学生活や、大学で学ぶ専門領域が自分のキャリア形成にとってどんな意味を持つのか、ということを考えさせ、年次進行に従って  
・CD I「未来の自分」  
・CD II「専門分野をもつということの意味」  
・CD III、IV「仕事や社会との接点」  
について学んでいく。

### ●「学問と社会」

専門教育の一環として開講される科目。内容は教育組織ごとに異なるが、それぞれの分野における専門的学問領域と社会のつながりについて考える機会を提供される内容となっている。この科目を学ぶことを通じて、その専門分野を修めることが自分にとって、また社会にとってどのような意味を持つのかを考える機会となる。

### ●キャリアポートフォリオ(CARIO)

学生が大学生活の記録を綴じ込むファイル。入学時に全学生に配付され、各学生が経験からの気づきを手書きで記録し、集約する過程において、自己の外在化や客観視、キャリアに関する情報の集約、目標の設定や再検討・再構築の機能が発揮されることが期待される。

### ●フレッシュマン・セミナー

全教育組織で必修の初年次教育科目。新生がスムーズに大学生活に入るための指導、いわゆる受身の学習から主体的自覚に基づく学問への転換等を目的とした授業である。また、キャリアポートフォリオを使った授業プログラムも担当教員の裁量において行われる。



### 【3】入学から卒業までを見通したキャリア教育

卒業後を見通したキャリアデザインに基づいたキャリア形成のため、入学時から各学年での学習成果を着実に積み上げることで、卒業後の進路実現と共に社会人・職業人として必要な能力を自ら培っていく取組を実施。

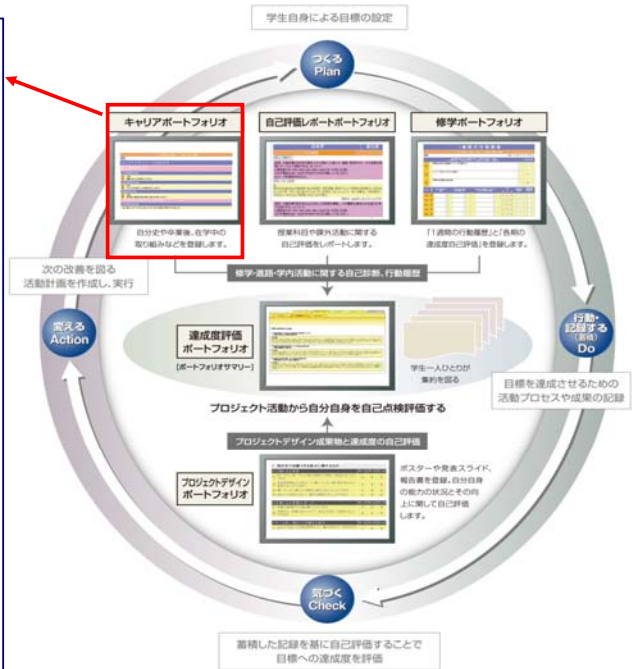
(例) 金沢工業大学

ポートフォリオシステムを活用して、正課内外における教育活動や、その達成度を記録し、自己点検評価を行う。また、自分の将来の目標設定と、その達成に向けた具体的な行動目標設定、行動目標とその結果の明確化によるキャリアデザインの自己管理等を行う取組を実施している。

キャリアポートフォリオは、卒業後を見据えて、1年次から自立・自助的に各自の可能性を広げる行動を開始することが求められること、一度描いたキャリアデザインは時間とともに変化し、人生の節目ごとに書き直す必要があることなどを念頭に設計されている。具体的には、描き出した後も自己成長型のキャリアデザインとキャリア形成を進めることができるようにするため、自分史、自己実現目標などを記録するワークシートを用いて、随時それを各自の自己点検に活用することを習慣化するレベルで身に付けさせ、目標への接近度や達成度を確認しながら次の行動設計に反映させる力を育成する取組を行っている。

【キャリアポートフォリオ(ワークシート) イメージ図】

キャリアデザインシート① 在学中	全項目参照	全項目参照
<p>① ① 大学の勉強について、得意科目は何ですか？ ② その得意科目はどんな勉強方法を取りますか？ ③ 大学の勉強について、不得意科目は何ですか？ ④ その不得意科目はどんな勉強方法を取りますか？</p> <p>② ① 工業科目 ② 授業で実習する。 ③ 英語・数学 ④ 授業以外で勉強する。</p> <p>③ ① クラブ活動、プロジェクト活動など、大学に關係する活動でその活動を達成したと認められると思えますか？ ② フォーミュラカープロジェクト ③ 自動車の知識・自動車の設計から製作までの流れ・車の構造</p> <p>④ ① 在学中にチャレンジしようと思える資格は何ですか？ ② その資格を取得するためにどのような計画・行動をしますか？ ③ 資格に挑戦することによってどのような人間力が身につくと思えますか？</p> <p>⑤ ① 機械設計技術者3級、CAD利用技術者試験、実用英語検定試験(英検)まで(何回も)も勉強できるように前から準備しておく。</p>	<p>① ① 理想の自分は何人ですか？ ② その理想の自分になるには何をすればいいですか？ ③ その人にならば何をしなければならない必要はありますか？</p> <p>② ① 周囲の人から ② 私が得意でないことを知っている人だから。 ③ 専門科目の力や知識を身につけること、フォーミュラカープロジェクトで経験した活動、車の設計を製作し、試行と検証すること。</p> <p>③ ① 今後どんな生活をしていきたいと思いますか？ ② そのためにはどんな能力が必要ですか？ ③ ① 自分自身の夢を実現するために一生懸命勉強したい。 ② 大学4年生、大卒3年間で夢を実現したい。就職先も決まっています。</p> <p>④ ① 人柄もよし、知れもよし、資格も有り ② 高次の活動が先がない場合は、ほかのメンバーは練習メニューも追加でやっているが、私はその先のことを考えて英語に打ち込んだ。</p>	<p>① ① 資格取得に関する目標を設定し、達成度を自己評価する。 ② 「資格の取得履歴」を各科目の達成度自己評価シートに登録する。</p> <p>② ① 資格取得に関する目標を設定し、達成度を自己評価する。 ② 「資格の取得履歴」を各科目の達成度自己評価シートに登録する。</p> <p>③ ① 資格取得に関する目標を設定し、達成度を自己評価する。 ② 「資格の取得履歴」を各科目の達成度自己評価シートに登録する。</p>



### 【3】入学から卒業までを見通したキャリア教育

入学から卒業までを見通してキャリア形成を行い、各学年での学習成果を着実に積み上げることで、卒業後の目標に向けて社会人・職業人として必要な能力を自ら培っていく取組を実施。

(例) 阿南工業高等専門学校

【キャリアデザインワークブック 表紙、目次等(抜粋)】

低年次から卒業後のビジョンを開かせるため、教育課程早期からの職業指導推進プログラムを実施している。1~3年次での特別学級活動と、4年次における校外実習(インターンシップ)を有機的に結合させることによって、高専本科教育の早期段階から総合的にキャリア教育を推進し、確固たる職業観・倫理観を持たせることで、5年次の就職活動等につなげることを目的とした取組を実施している。

プログラムの中では、企業人等を招いたセミナー等の開催や、学校独自に教材(キャリアデザインワークブック)や教員向けの指導マニュアルを作成し、それに基づいた体系的なキャリア教育が行われている。

【職業指導推進プログラム 全体スケジュール】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	エンジニアとは エンジニアの仕事について						どのように勉強すべきか? 資格取得について					
2年生	エンジニアに対する社会の要求 (公害・環境)						5年生の就職試験体験談 4年生の校外実習体験談					
3年生	本校卒業生の体験談						エンジニアに対する 社会の要求(企業倫理)					
4年生	校外実習の ガイダンス			実習期間および 発表準備			目標設定 発表			調査(企業研究) 面接訓練		
5年生	就職活動期間						学生時代の総まとめ(卒業研究) 就職準備(スキルアップ)					

はじめに・・・キャリアデザインってなに？

将来どんな仕事したいか？そのためには何を勉強すべきか？という計画。目標を定めて実行していくことがキャリアデザインです。このワークブックはみんなのキャリアデザインを応援していくためのツールです。このワークブックを各学年の授業ルーム(学級活動)のキャリア教育(年4回、3年では1回)の時に使います。【キャリアワーク】の欄は各自の先生の指導にしたがって書き込んでください。最後の(4章)は卒業後の進路について自分で書き込んでください。

「阿南高専生のキャリアデザインワークブック」の目次

1. 高専1年生のキャリアデザイン  
1-1. 高専生活を有意義なものにするために  
1-2. 社会に出て働くことの意味  
1-3. 企業と社会  
1-4. 高専で学びながら身につけてみたいマナー  
高専1年生のキャリアデザインのまとめ

2. 高専2年生のキャリアデザイン  
2-1. 会社の組織とエンジニアの仕事  
2-2. 企業にとって好ましい人材とは  
2-3. 必要とされるコミュニケーション力  
2-4. 先輩(卒業生)の体験談に学ぶ  
高専2年生のキャリアデザインのまとめ

3. 高専3年生のキャリアデザイン  
3-1. 業界研究と企業研究  
3-2. 自分を知り、自分を知ってもらう  
3-3. インターンシップ参加の目的と意義  
3-4. 就職・進学への選択  
高専3年生のキャリアデザインのまとめ

4. いままでのキャリアデザインのまとめ

1-2. 社会に出て働くことの意味  
学校を卒業したくないと思うのでしょうか？江戸時代なら身分に応じた職業に強制された。決まった枠の中で生活する事になります。自由はあっても、不平等な社会をおくる事が出来た。しかし現代の私たちに、職業選択の自由が与えられますが、その代わりに職業を履いて働くには税金を支払う必要が生まれてきます。

現代社会においては、収入が得られないという事は、生活できないということになります。今、自分は働かなくても生きていけるという人は、誰か(保護者)に養われているという事を認めています。いつまでも養って貰えるような環境ならいいのですが、保護者が健在であるうちは働かなくても大丈夫ですが、それがいつまでも続かない。エリートと呼ばれる不労所得者約100万人といわれていますが、みんなは社会に出て働き、自立する道を歩んでください。

考えてみよう：人が生きていくには衣食住の他に何にどんなお金が必要か？  
光熱費、通信費、交際費、生命保険料、健康保険料、国民年金の掛金、住民税、所得税(所得がなければ)、消費税(どの各種課税)、自動車維持費(修理費、ガソリン代、車検費用、高速道路の通行料など)。(収入が支出を上回らなければいけません)

1-2-2. 働くことによって得られるもの  
先ほどお話ししましたが、家族が収入を持って生活できるという事は、職業を履いても生活はできますが、果たして家族が収入を持って生活できるのでしょうか。人間社会的な生き物です。やはり、職業を通じて社会の一員としての居場所を確保することで精神的安定、地位や名譽収入を得ることが出来ます。

社会に出て労働し、対価として報酬を得るためには基本的には他人のために仕事をしないといけません。「自分のために」仕事をすることは出来ません。自分のための仕事は家事や趣味になるのです。社会に出ると、他人が期待する仕事ができるようになってはじめて報酬がもらえます。また、会社が大きくなると一人前の仕事ができるまでの勉強の期間に余裕が半人前まで給料はもらえませんが、会社が大きくなると、実力主義の人事システムだと、即戦力としての実力が認められます。そのような厳しい社会にたどり着かれて生きていかなければならない。現代人の宿命です。

社会人として若年層は、恋愛もする事を持つ(つまり結婚)することもあるでしょう。働くことによりある程度安定した収入がないことには家庭を持つことも不安です。結婚して新しい人生を歩むということは具体的な経済問題を解決していることでもあります。自分の家族を持つことは自分の人生が充実していることを意味します。日本では家族を持ってはじめて一人前といわれることがありますが、家族を持った喜びが責任と責任につながる。その責任は責任を負っていかなくてはなりません。就職して最初の給料までは収入がないので、要注意です。この期間は本当に心細い、悲しい、お金がなくて本当に困ります。

学生時代が終わっても収入は入らないままに、就職して最初の給料までは収入がないので、要注意です。この期間は本当に心細い、悲しい、お金がなくて本当に困ります。



## 【4】身に付けるべき知識や能力の明確化と到達度の評価

教育課程を編成・実施するにあたり、各授業科目及び教育課程全体を通じて学生にどのような能力をどの程度身に付けさせるかを明確化。

(例) 東京女学館大学

社会で必要とされる基礎力として、「10の底力」を設定し、すべての授業科目でこれらのうちどの能力を育成できるかを明確にした教育を行う取組を実施している。  
また、授業や各種行事において学生の「底力」を高めるため、効果的な方法を学ぶFD・SD体制を充実させ、学生1名に対して教員1名が履修計画や進路に関するアドバイスをを行うとともに、伸ばしたい「10の底力」がその学生のキャリアプランに合っているかどうか、キャリアカウンセラーが相談に乗る体制を構築している。  
セメスター終了ごとに学生と教員それぞれが能力の到達度を評価し、レーダーチャートで示すことにより、学生は次のセメスターの履修の参考に。卒業時には、4年間で10の能力の成長度を学生に提示する。

### オーダーメイドのキャリア教育



### 【卒業成長値を高める10の底力】

- ① コミュニケーション能力
- ② プレゼンテーション能力
- ③ ディスカッション能力
- ④ 国際感覚・多文化理解能力
- ⑤ 外国語運用能力
- ⑥ 調査能力
- ⑦ IT能力
- ⑧ クリティカル思考
- ⑨ コンセプチュアルスキル (問題発見・提案・実行力)
- ⑩ 自己理解能力

### 10の底力 マッピング表

底力	科目	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度	到達度
①	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
②	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
③	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
④	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
⑤	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
⑥	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
⑦	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
⑧	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
⑨	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
⑩	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語

### シラバス

シラバスキーワード検索: シラバスを10の底力とキーワードで検索できます。

10の底力

コミュニケーション能力  プレゼンテーション能力  ディスカッション能力

国際感覚・多文化理解能力  外国語運用能力  調査能力  IT能力

クリティカル思考  コンセプチュアルスキル(問題発見・提案・実行力)  自己理解能力

全てから [検索]

各授業科目で育成される「10の底力」は、マッピング表において学生に示されている。シラバスについても、能力に対応した授業科目の検索が可能となるよう工夫がなされている。

参考URL: <http://www.tjk.ac.jp/student/index.php> (10の底力) <http://www.tjk.ac.jp/campus/syllabus.php> (シラバス検索)

## 【4】身に付けるべき知識や能力の明確化と到達度の評価

教育課程を編成・実施するにあたり、各授業科目及び教育課程全体を通じて学生にどのような能力をどの程度身に付けさせるかを明確化。

(例) 三重大学

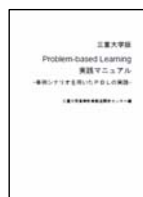
学生の「4つの力」を育成することを教育目標として掲げ、その達成に向けた体制整備及び取組が教養・専門教育を通して実施されている。

【具体的な取組等】

【三重大学「4つの力」】

(1)PBL: (H17年度～)

問題発見解決型学習、能動的学習、グループ学習、形成的評価などを特徴とする授業スタイルは、4つの力の育成に効果的かつ各授業における学習内容を変更することなく導入できることから、PBLを全学的に展開することを目的したFDや支援プログラム等を継続的に実施。



【「4つの力」及びその下位項目(構成要素)】

- ・「感じる力」:  
感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識
- ・「考える力」:  
幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、課題探求力、問題解決力
- ・「コミュニケーション力」:  
情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力
- ・「生きる力」:  
感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力  
(第2期中期目標・中期計画(案)より抜粋)

「4つの力」は、「学士力」等の社会から求められている力との整合性も考慮され、知識・理解だけでなく、汎用的技能や態度・志向性とともに社会的能力等の総合的な能力も含むものとして設定されている。

(2)eラーニング: (H18年度～)

授業の効率化、学生間・学生と教員間のコミュニケーションの促進、ひいては「4つの力」の育成にも効果的であるオープンソースの学習管理支援システムMoodleをカスタマイズし(「三重大学Moodle」)、全学的に展開することを目指したFD等を継続的に実施。



(3)初年次教育科目: (H21年度～)

三重大学の教育目標の理解、学習の動機付け、学習スキルや社会的スキルの獲得などを目的として、全学を対象に「4つの力 スタートアップセミナー」を開発。全体を通してPBLが導入されるとともに、各回の授業では、プロジェクトと関連付けて、「4つの力」に関わるテーマの講義・討論及びリフレクションシートやeポートフォリオを活用した修得能力の省察を実施。

(4)修学達成度評価システム: (H17年度～)

アンケート調査の回答に基づいて、学生の「4つの力」の評価値を算出する評価システムを開発し、学習の省察(学生)及び教育の達成度評価・改善(大学)に活用する取組を継続的に実施。



参考URL: <http://www.hedc.mie-u.ac.jp>

## 【5】一人一人のキャリア形成を促進させる支援

学生支援など正課外活動を通じて、一人一人のキャリア形成を促進させる個別支援を行う取組。入学段階から学生一人一人のキャリア形成を支援するため、アドバイザーの配置やキャリアカウンセリングを行う取組を実施。

(例) 金城学院大学

### ●全教員によるアドバイザー制の導入

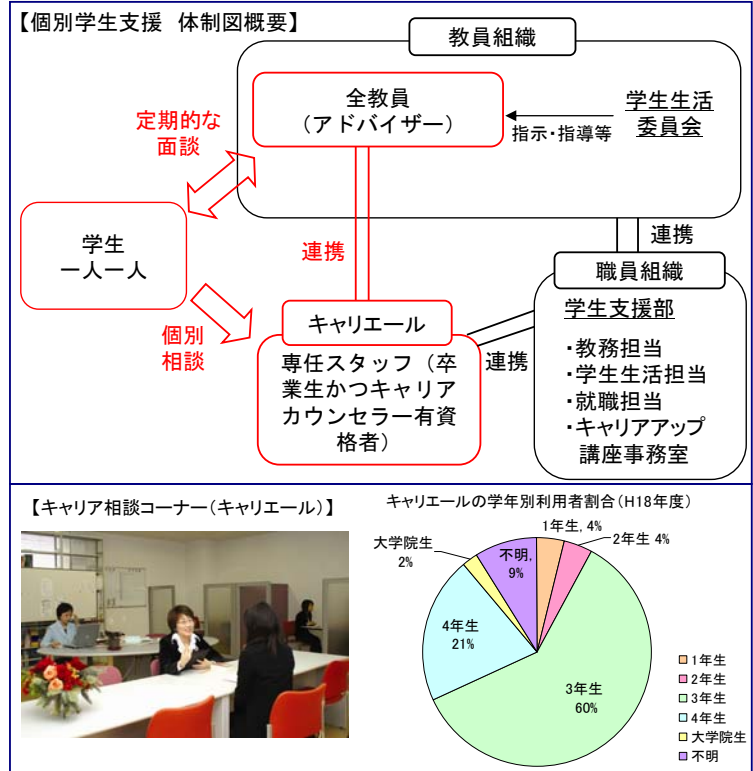
教員が学生と定期的に面談し、学習面、学生生活面等を個別に支援するアドバイザー制をすべての学年において導入している。アドバイザーは担当する学生と定期的に面談し、学習面、学生生活面のみならず、キャリア面での指導にもあたる。例えば、個別の学生の状況に応じ、キャリア相談コーナーの利用を薦めるなど、学内の関係部局との連携の起点にもなっており、学内の関係部局と連携して、きめ細やかな支援を実施する体制を整えている。

### ●キャリア相談コーナー「キャリアール」の設置

キャリアカウンセラーや専門分野での職務経験のあるスタッフ等の専任担当者が常時配置され、入学後の自己分析から職業選択・就職活動まで、キャリア形成全般にわたる相談が可能な相談コーナー「キャリアール」が開設されており、学生は個別にカウンセリングを受けることができる。キャリアールのスタッフは、3年生全員を対象とした個別面接とグループ面接を行うなど、個別カウンセリング以外にも学生への支援を行う機会を設けている。

### ＜主な相談内容＞

- ・将来のために何をしたらいいのかわからない
- ・自分に向いている職業が知りたい
- ・夢はあるが、実現は可能だろうか
- ・大学院に進学すべきか、就職すべきか迷っている
- ・なかなか内定を得られず自信をなくしている
- ・面接でうまく自己アピールできない
- ・自分の希望進路を家族に反対されている など



## 【5】一人一人のキャリア形成を促進させる支援

学生支援など正課外活動を通じて、一人一人のキャリア形成を促進させる個別支援を行う取組。入学段階から学生一人一人のキャリア形成を支援するため、担任の配置やキャリアカウンセリングを行う取組を実施。

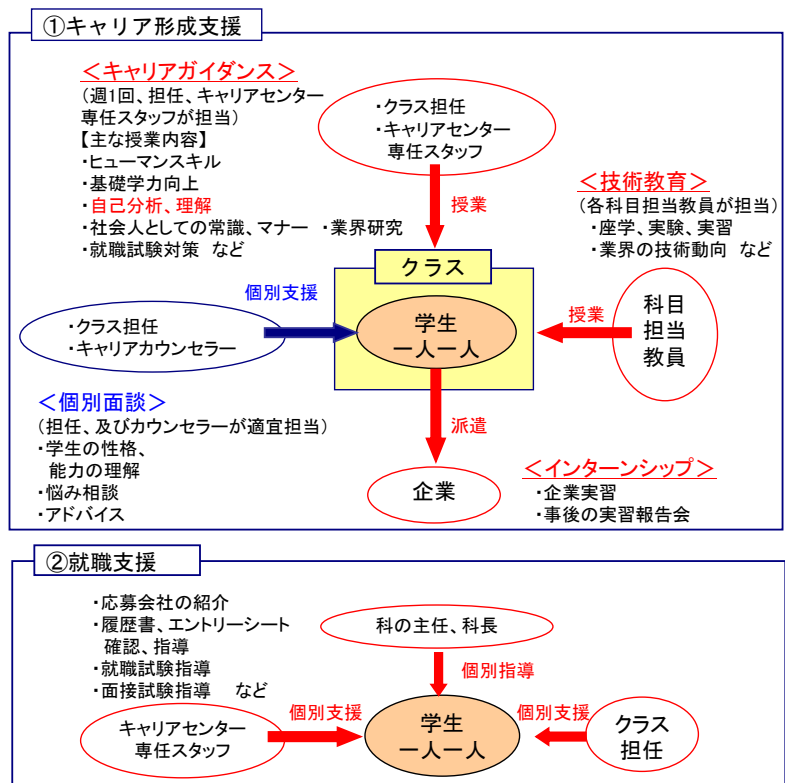
(例) 名古屋工学院専門学校

一つの専門分野を捉えても、対応する業種・職種は様々であり、学生の適性、希望する業種・職種、技術力は一人一人異なることを踏まえ、クラス担任とキャリアセンターの専任スタッフが協働して、授業「キャリアガイダンス」及び学生一人一人に対する個別指導を行っている。

授業「キャリアガイダンス」では、自己理解や自己分析に重点を置きつつ、ヒューマンスキル等の向上を目指した授業が行われ、キャリア形成・就職活動に向けて分野を問わず必要な能力の育成が図られている。

また、担任の教員との毎月の個別面談や日々のコミュニケーションの中では、学生の考えや性格、能力に応じたアドバイスが行われており、学生一人一人に合った業種・職種の理解の促進や、将来に向けて必要な技術の習得及び資格取得に向けての動機付けなどの就職支援、生活指導や学習指導、悩み相談にも個別に対応し、必要に応じて心理士によるカウンセリングも行っている。

また、就職に際しては、担任及びキャリアセンターの専任スタッフが、各学生に合う応募先の情報提供、応募書類の書き方、面接試験対応など、幅広く相談を受ける体制を整え、学生一人一人に合う業種・職種・会社の紹介を行っている。



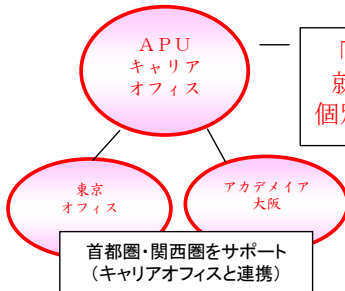


## 【5】一人一人のキャリア形成を促進させる支援

入学段階から卒業時まで学生一人一人のキャリア形成を支援するため、留学生・日本人学生合同で「キャリア開発プログラム」等の取組を正課内・正課外活動として実施。

(例) 立命館アジア太平洋大学

※ 2009年11月1日時点 留学生総数：2,856人 (学部:2,550人 大学院:306人)



「キャリア開発プログラム」を企画・運営し、学生のキャリア形成全般を支援・指導。就職先企業・団体との交渉や情報交換、学生への情報提供、進路・就職に関する個別相談等の就職支援を行う。

### 2008年度

留学生の就職希望者(236名)の就職内定率 **96.2%**

#### 【1】入学直後から取り組む「キャリア開発プログラム」の実施 (日本人学生と合同)

- STEP1 1回生 全ての学生を対象に「進路意識調査アンケート」を実施し、それに基づき進路や履修に関する指導・相談を実施。
- STEP2 1～2回生 国際的な企業や団体のトップをなどの講演会や、OB・OGとの懇談会の開催により、大学ですべきことを理解させる。
- STEP3 1～3回生 国内外企業・団体・自治体などで実務を体験する「インターンシップ」への参加を支援し、より目標を明確にする。
- STEP4 3～4回生 国内外企業・団体からの求人情報を提供。学生の希望やスキルを把握した上で、就職活動方法の指導や個人面談により支援。

#### 【2】オンキャンパス・リクルーティングの実施 (日本人学生と合同)

○企業・団体の人事担当者をキャンパスに招き、説明会や懇談会だけでなく採用試験や面接をキャンパス内で実施。  
(2009年度 340社が来学実施)

#### 【3】インターンシップ・プログラムの実施 (日本人学生と合同)

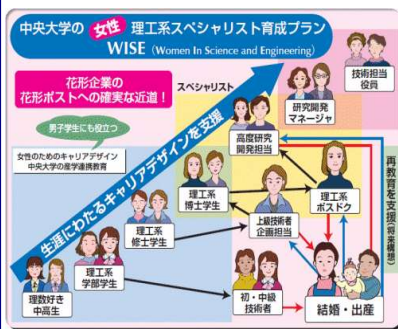
○学生のニーズに対応し、国内の企業・団体や海外を拠点とする国際企業での実務を体験。インターンシップ先は、大学と企業等が協定を結び実施する「協定型」と学生が情報を入手して独自に行う「独自型」があり、一定の条件を満たした場合は単位を付与。  
(2008年度は「協定型」において100人以上の学生が60企業・団体でインターンシップに参加。)

## 【6】女性の多様なキャリアを意識した取組

女性の多様なキャリアを意識したキャリア教育や、卒業生等の社会で活躍する女性に接する機会を設けるなどの取組を、正課内外において実施。

(例) 中央大学

#### 【WISE Chuo 概要図】



#### 正課内の取組:

企業で活躍する女性研究者・技術者を講師として招き、学部1～3年次の女子学生を主たる対象に、少人数のセミナー形式で、様々な研究開発事例や技術課題の取組を紹介する授業を行っている。こういった取組の紹介を通じて、大学で学ぶ科学技術の基礎と産業界でのその応用の関係を認識させるとともに、女性研究者・技術者に期待される役割を認識させる。

このような具体的事例を題材とした課題演習やPBLに取り組むことにより、学生がより具体的に、科学技術の基礎の理解とその産業応用との関係を理解するとともに、ロールモデルとなる女性との身近で密な交流を通して、学生が自分自身のキャリアを意識した積極的なキャリア形成を行い、専門家への志向を強化する取組を行っている。

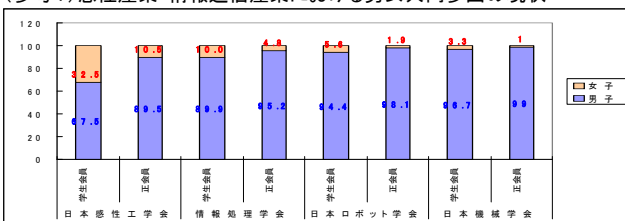
#### 正課外の取組:

本学の卒業生を含む、産業界で活躍している若手・中堅・ベテランの各層からの女性研究者・技術者を招いた講演会や、企業(研究開発の現場)の見学会を開催し、女性研究者・技術者としての仕事・結婚・出産・育児休暇後の仕事の継続方法等、様々なライフステージについての理解も深めつつ、各自のキャリアアプランの設計方法について学ぶ取組を行っている。

#### 男子学生と学ぶ男女共同参画:

男子学生にも、このようなロールモデルとなる女性からの講義や交流を通じて、女性研究者・技術者に期待される役割や、女性が様々なライフステージで能力を発揮できるようにするために、男性が果たすべき役割を、学生の間から理解させている。

(参考1) 感性産業・情報通信産業における男女共同参画の現状



【図】学会を構成する学生・技術者・研究者の男女構成比

- (各学会より資料提供)
- 女性の活躍が特に期待されている感性産業分野・日本感性工学会であっても、各学会正会員数に対する女性の比率は高くはない。
  - 学生(大学院生を含む)時代には当該分野の学習をしておきながら、正会員(研究開発の仕事に従事しているものと考えられる)になる割合が低いことから、職業としては研究開発職に就かない女子学生の比率が高いといえる。

(参考2) 情報通信産業における女性専門職の採用割合(実績)と採用側の希望  
技術系女性採用者比率 (%)

	2007年	2008年	2009年
A社	27.5	36.2	37.6
B社	11.5	14.5	14.7
C社	10.2	9.7	10.9

【表】技術系女性採用者比率(データは協力企業からの情報に基づく)

#### 【企業からのコメント】

- 「(性別に関係なく)優秀な学生を採用する」のが目的なので、「女性の採用目標」は設定していないが、結果的に技術系女性の採用比率が伸びている。
- 女性比率についてはもう少しアップさせたいと考えているが、応募してくる技術系女性の人数そのものが少ないこともあり、なかなか思うようには向上していない。

参考URL: <http://www.hm.indsys.chuo-u.ac.jp/girls/index.html>



## 【6】女性の多様なキャリアを意識した取組

女性の多様なキャリアを意識したキャリア教育や、卒業生等の社会で活躍する女性に接する機会を設けるなどの取組を、正課内外において実施。

(例)福岡女子大学

専門教育も含めて、大学の4年間の学習を、女子高度教養教育として構築する改革の中で、女子学生の「キャリア(人生)形成」と「男女共同参画社会の実現」を目指す取組を行っている。

具体的には、社会の中で女性が置かれている状況の理解のための授業や、女性の多様なキャリアを意識させるための授業科目(「女性学・ジェンダー論」等)を開設する取組を行っているほか、現代社会で活躍する女性に求められる基礎力を養成する女子専門の高等教育機関として、女子学生のキャリア意識・ジェンダー意識の向上、知的実践能力の向上、実践的コミュニケーション能力の向上を目指す「女子高度教養教育」の実現を図るなど、社会人・職業人としての自立に向けた能力育成を重視し、大学教育の中に位置付ける取組を行っている。

<具体的な取組例>

職業キャリア導入教育科目の「人生・職業・社会」、「キャリアデザイン」において、授業方法を工夫し、学生の意識と能力の向上に努めている。

「人生・職業・社会Ⅰ・Ⅱ」(1年次前期・後期)

人生・職業・社会の現実を知ること及びそれに自分がどう関わっていくかを考えることを目的とした授業。

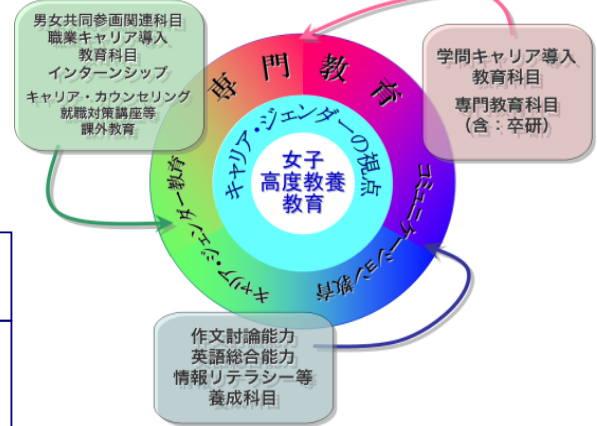
予めウェブ上の講義ビデオの内容に関する400字の作文を書いて授業に臨み、授業では各自の作文を基に、3人組での討論(三角(参画)討論)及び全体討論を行う。

「キャリア・デザインⅠ・Ⅱ」(2年次前期・後期)

ゲストスピーカーとして前期は卒業生、後期は卒業生に限らず社会で活躍する女性を講師として招き、講師からの講話及び学生と講師との対話を行う。教員は授業のコーディネート役として参加する。対話後に学生は講師への「お礼の手紙」を書く。

男女共同参画社会をめざすキャリア教育

福女CEプログラム



福岡女子大学の特色

- ①あらゆる機会を捉えてキャリア教育を行う。
- ②学問キャリア導入教育と職業キャリア導入教育を学生教育の両輪とする。
- ③読み書き討論能力を重視し養成する。

参考URL: <http://www.fwu.ac.jp/gendaiGP/index.html>

## 【7】後期中等教育と高等教育の連携

高等教育機関が有するリソースを活用して、後期中等教育の充実に資する取組や、高等学校が専修学校と連携して効果的なキャリア教育を促進する取組。

(例)関西大学

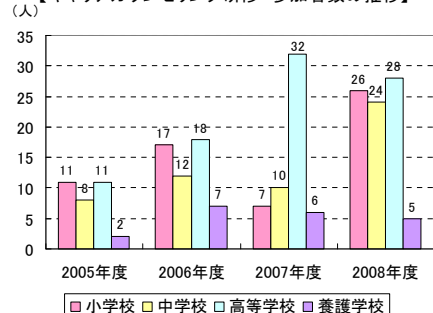
キャリア教育の取組は大学においてのみ行われるものではなく、小学校時代から発達段階に応じて取組を積み重ねることが必要という認識の下、キャリア教育の観点から初等中等教育と高等教育との連携を促進する取組を行っている。

具体的には、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会と連携し、小・中・高等学校教員を対象とした「キャリア教育入門ーキャリアカウンセリング研修ー」を平成17年度から開催している。

研修の対象を教員とすることにより、その背後に存在する大多数の児童・生徒に働きかけられること、また、中学校・高等学校の教員に対しては、卒業生のフォローアップという意味での有効性が期待される。

研修プログラムには、キャリア教育の必要性やその実践方法、キャリアカウンセリングを用いた生徒・児童への個別的な対応方法、大学におけるキャリア形成支援の実情といった内容について講義と実習を交えて実施している。

【キャリアカウンセリング研修 参加者数の推移】



(例)大阪府の取組

大阪府では、高等学校のキャリア教育・職業教育の充実に向けた取組(大阪版「職業アセスメント・プログラム」)の実施に当たり、自治体・教育委員会・専修学校団体、民間団体の連携の下、専修学校のリソース(教職以外の職業経験を持つ社会人、業界で使用される設備、就職支援のノウハウなど)を活用した公立・私立の高校1年生対象の事業が進められている。

具体的には、自己診断テストの実施、ワークショップにおける職業人との交流、専修学校における職業体験学習等の機会を体系的に提供することなどにより、高校生が多様な進路の中から自分の興味や資質、適性に基づく進路選択を行うことができるよう支援を行っている。

高校側としては、提供することが困難または調整が大変な点について専修学校が持つリソースを活用した教育ができ、また、専修学校側としては、職業意識の高い生徒の入学が期待される等、連携によるメリットが生まれてきている。

大阪版「職業アセスメント・プログラム」の対象と目標

◇事業の対象

モデル高校10校(府立高校、私立高校)の高校1年生(約2,600名)

◇事業の目標

このプログラムを通じて、生徒が自己理解、自己肯定感、主体性、社会とのつながりへの意識、勉学等の意欲、などを高めること。

参考URL:

<http://www.osaka-senkaku.or.jp/education/index.html>